

愛ある想像力

2026・3・19 重枝 一郎

「授業」を受ける生徒は、どんな生徒だろう。自動車学校のように明確な目的をもっている感じまでではない場合も多い。それでも「授業」を希望する生徒がいる。なぜだろう。おそらく、生徒の潜在意識の中に漠然とした不安があるからだと思う。そして「授業」でその漠然とした不安を解消してほしいと願っている。

「このままでは、学校の成績が落ちてしまうのではないか」「このままでは大学に入れないのではないか」「勉強についていけないのだろうか」、このような漠然とした不安が「授業」を受ける動機になっている。

実は、この漠然とした不安が、生徒に対する指導を難しくさせている。生徒の漠然とした不安を明確にしてあげようとするあまり、「こうあらねばならない」とか、「ここまでする必要はない」とか、「とことんやるべき」とか、「自分の信念に沿って指導する」とか、教師の独善的な在り方が出てくる。「誰のために、何のための指導なのか」「だいたい主体性の育成って何?」、最初は生徒のためという意識であっても、結局、教師の自己満足に陥ってしまう危険性がある。

ただ思うことがある。私も進路指導を話す時に、よく逆三角形の絵を使い、異質・多様なヒト・モノ・コトと出合わせ、可能性を広げる指導が大切であるという話をする。私の時代は、三角形型で、学校の中だけの世界で、進路を絞り、わかりやすい道を歩ませる指導であった。このわかりやすさは、実は不登校になりにくいという特徴を持っていたかもしれないと言われる。いろいろ選択肢があるとわかりにくく、目標を作りにくく、気持ちが乗らないと言う。だから、一般的には逆三角形型を話す、相手によっては、わかりやすく明確に目標を持たせることも必要なのかもしれない。もちろん不登校の増加は、この話が全てではない。

だから、いつも私たちが考えなければならないことは、自分がやっている行為や思いは、自分の満足のためなのか、それとも相手の満足を引き出すためなのかということを見問自答しなくてはならない。それをしないと、私たちはすぐに自己満足的な行動や思いに陥ってしまう。

どうしてそうになってしまうのか。それは相手が「生徒」だからである。正直生徒だと対等な意識は持ちにくい。また、生徒は私たち教師の目で見られているが、私たちは他者の目で見られる意識が弱い。だから、自分の考えや思いだけに合わせて指導しがちになる。だから、教科内での研究授業や、授業公開は意義がある。おそらく出前授業や体験授業をするときの感じがいい。

自分の満足を考えてしている「授業」も、その人のやりがいになっていたりするのはわかるが、教師は自分の好きなことだけで仕事はできない。よそで聞く話では、探究学習の指導を嫌がる教師もいる。自分がわからないと不安になるからである。つまり、自分が知っていることのみを伝えるという自己満足に慣れているからである。私たち教師は、生徒が将来生きるであろう社会のこと、人間のことを知ろうとしなくてはならない。この意識は、教師の人間力の向上につながる。それが、生徒・保護者からの厚い信頼を得ることにもなる。

だから、相手の満足を高めようとする意識で、行動することが大切になる。教育とは、相手が求めているものを想像し、それを提供することである。相手の満足を引き出すことと、相手に迎合することは違う。生徒が何を求めているのかを想像するには、生徒の話聞く中でその真意を見つけていく。そういうコミュニケーションもせずに、生徒が自分に従わないと不満を抱えていないだろうか。この「想像力」こそ教師に最も求められる資質だと思う。

1年間本当にお疲れさまでした。先生方のおかげで、本年度も、明るく学校運営ができました。ありがとうございました。
来年度も、チームの相互変容で、各々で主体的成長してほしい。